

# 三重縣公報

第三七五八號

昭和十五年五月二十八日

火 曜 日

## 告 示

●三重縣告示第五百三十號

河藝郡稻生村池ノ下耕地整理組合工事施行ニ伴ヒ河藝郡稻生村ノ字區域ヲ左ノ通變更シ昭和十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年五月二十八日

三重縣知事 中野 與吉郎

原 土 地

大 字 字 地 番 地 目 備 考

稻 生 淨土地 八、二四九ノ二 山、林 全面積一町六反二畝二九步ノ内四反六畝二〇步

同 同 八、二五〇ノ一 荒蕪地 全面積

同 同 八、二五〇ノ二 山林 全面積

右大字稻生字池ノ下ニ編入ス

●三重縣告示第五百三十一號

漁業法施行規則第四十五條ニ依リ養殖ノ爲稚鮎ノ採捕ヲ許可シタルモノ左ノ如シ



(桑名郡桑部校) 上出 勉  
 小學校令施行規則第二百二十二條第一號ニ依リ休職ヲ命  
 ス

●教員改姓

三重縣龜山實業學校教諭藪行雄ハ四月二十六日清水行  
 雄ト、三重縣公立小學校訓導(宇治山田市中島校)稻葉  
 きみハ五月九日廣きみト、三重縣師範學校訓導西幸松  
 ハ同十一月林幸松ト、三重縣公立小學校訓導(飯南郡  
 磯殿校)溝田をちよハ同十四日中西をちよト、同(名  
 賀郡上津校)川嶋瀧子ハ同十五日和田瀧子ト孰モ改姓  
 セリ

●教員出向

三重縣師範學校教諭植山一郎ハ五月十五日附東京府へ  
 出向セリ

通牒照會

●精勤第一三八號

昭和十五年五月二十八日

精	總	經	警	學
動	務	濟	察	
企	部	部	部	
畫	部	部	部	
部	長	長	長	長

各市町村長殿  
 各學校長殿

六月興亞奉公日ノ強調自肅ニ關スル件

現下ノ時局ニ鑑ミ戰時食糧ノ充實、經濟道德ノ確立ヲ計リ國家總力戰態勢ヲ益々鞏固ナラシムルノ要切ナル  
 モノ有之縣ハ茲ニ強力ナル戰時食糧報國運動ヲ實施シ米穀事情ヲ深ク認識セシメ節米、供出米、増産ノ實踐ニ  
 當リ統後食糧報國ノ重大責務ヲ果サンコトヲ期シ居候就テハ六月興亞奉公日ニハ各自一層自肅シテ基本行事  
 (昭和十四年八月二十五日)ヲ遵奉スルハ勿論特ニ左記事項ノ實踐躬行ニ當ラシムル様一段ノ御配慮相煩度此  
 (精勤第一三五號)段及通牒候也

記

一、米尊重精神ノ振作並節米ノ實行

- 1、一般家庭ニ於テハ必ズ麥、甘藷、馬鈴薯、野菜類ノ混食又ハ雜炊、粥食トシテ二割以上節約ヲスルコト
- 2、學校ニ於テハ完全咀嚼ノ指導ニ努メ必ズ混食辨當ヲ持參スルコト



其ノ期間ニ仔豚ヲ生産シタル牝豚ノ數	頭		内昭和十五年中ニ二回目ノ生産ヲナシタル牝豚ノ數	頭
	牝	計		
生産セラレタ	頭	頭		頭
仔豚ノ數	計	頭		頭

備考

(注意)

- 一、官有ノモノヲ除キ總テ調査スルコト
- 二、本調査ハ豚飼養者ニ依頼シテ生産ノ都度申告セシムルカ或ハ調査員ニ於テ豚飼養者ニ就キ聴取スル等ノ方法ニ依リ之ヲ調査スルコト

●社兵第一九四三號

昭和十五年五月二十八日

各 警察署長殿  
各 市町村長殿

學 務 部 長

海軍簡閱點呼執行ニ關スル件

昭和十五年吳鎮守府簡閱點呼本縣執行日割左記ノ通ニ有之候條此段及通牒候也

記

執行 月 日	執 行 地	參 會 區 域
六月 十七日	上野町公會堂	上野、柘植、阿保、名張警察署
同 十八日	久居町一志郡會議場	久居、奥津警察署
同 十九日	松阪市第五小學校	松阪市、松阪、宮ノ前、相可警察署
同 二十一日	木本町小學校	木本、鶴殿警察署
同 二十三日	長島町青年學校	長島、野後、天ヶ瀬、尾鷲警察署
同 二十四日	鳥羽町小學校	鳥羽、波切警察署
同 二十五日	宇治山田中學校	宇治山田市、宇治山田、吉津警察署
同 二十七日	神戸町小學校	神戸、一身田警察署
同 二十八日	四日市市公會堂	四日市市、四日市、富田、菰野警察署
同 二十九日	桑名市修徳小學校	桑名市、桑名、大泉原警察署
七月 八日	軍艦 八雲艦上 (津市岩田川口 新堀入口集合)	津市、津、龜山警察署

備考 一、點呼執行官

陸上點呼	海軍大佐	中野勝次
艦上點呼	海軍大佐	緒方勉
同	海軍中佐	則滿宰次

二、參會者集合時刻及開始時刻

陸上點呼	午前七時三十分參集 午前八時開始
艦上點呼	參集時刻ハ別ニ定メラル 午前八時開始

三、參會者ノ服裝

第二種軍裝 帶勳 (第二種軍裝ナキモノハ帽白覆ヲ附スルコト)

四、參會者必携品

應召袋(所持セザル者ハ適當ノ包)

内容品 點呼令狀、履歴表、印判、海軍在郷軍人須知、冊子「昭和十五年點呼會合者ノ爲ニ」、鉛筆又ハペン等

●商第二、三二一號

昭和十五年五月二十八日

支 應 長 廠  
各 市 町 村 長 殿

經 濟 部 長

輸出鐵鋼製品ノ製造用鋼材並ニ鐵鋼配給ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ昭和十三年八月九日付一三調一部第三四四號臨時物資調整局第一部長通牒記載ノ方針ニ基キ(昭和十三年八月二十二日付商第二、三二一號縣公報參照)各地方廳ニ於テ鐵鋼割當證明書發行致居候處五月二十日付ヲ以テ商工省鐵鋼局長ヨリ輸出原材料用鐵鋼ノ配給ニ關シテハ物資動員計畫ニ於テ決定セララル第三國向輸出品原材料用鐵鋼ノ計畫數量ニ即應シ供給方策ヲ圖ラン爲爾今地方廳ニ於テ右ニ關スル證明書ノ發行ハ之ヲ止メ、左記ノ通中央ニ於テ一括シ取扱フコトト相成候旨通牒有之候條右御了知ノ上關係業者ニ對シ周知方可然御取計相成度此段及通牒候也

記

一、昭和十三年八月九日附一三調第三四四號臨時物資調整局第一部長通牒ニ基キ從來地方長官名ヲ以テ發行シ居リタル輸出鐵鋼製品製造用鐵鋼ニ對スル鐵鋼割當證明書(限外發行)ハ來ル五月末日限り之ヲ廢止スルコト

二、來ル六月一日ヨリハ右ニ關スル事務ハ日本鐵鋼製品工業組合聯合會ニ於テ取扱フコトトス

從而需要者ハ前記通牒ニ記載セラレタル方針ニ從ヒタル關係書類ヲ添附シ右工業組合聯合會ニ直接鐵鋼割當證明書ノ發行方ヲ申請スルコト

三、日本鐵鋼製品工業組合聯合會ニ於テハ商工省ノ指示ニ從ヒ當該用途ニ引充ツルモノトシテ別ニ定ムル鐵鋼ノ品種別數量ノ範圍内ニ於テ鐵鋼割當證明書ヲ發行スルコト

●水第九七四號

昭和十五年五月二十八日

經濟部 局長

各市町村長殿

支那海漁船出漁助成ニ關スル件

支那海漁場ノ開發ヲ圖リ邦人漁業者ノ進出ヲ促進スル爲南支那海沿岸ヲ漁業根據地トシテ南支那海ニ於テ漁業ニ從事セントスル漁船ノ經常費ニ對シ支那海漁船出漁助成金交付要項ニヨリ助成ヲ行フコトニ相成居候處今般右要項ヲ別記ノ通改正スルト共ニ併セテ中支那海沿岸ヲ漁業根據地トシテ中支那沿岸ニ於テ漁業ニ從事セントスル漁船ノ經常費ニ對シテモ助成金ヲ交付スルコトト相成候條關係漁業者ニ周知セシメ目的達成ニ遺憾ナキ様御取計相成度依命此段及通牒候也

(別記) 支那海漁船出漁助成金交付要項

- 第一 農林大臣ハ支那海漁場ノ開發ヲ獎勵スル爲本要項ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付ス
- 第二 助成金ハ中支那近海及南支那海沿岸ヲ根據地トシ中支那近海及南支那海ニ於テ漁業ニ從事セントスル漁船ノ左ニ掲グル費用ニ對シ之ヲ交付ス
  - 一 燃料ノ購入ニ要スル費用
  - 二 漁具ノ購入又ハ借入ニ要スル費用
  - 三 乗組員ニ對スル給與(食料ノ手當ヲ含ム)ニ要スル費用
- 助成金ノ額ハ前項ノ費用ノ三割以内トス
- 特別ノ事由アル場合ニ於テハ助成金ハ前項ノ割合ヲ超エテ之ヲ交付スルコトアルベシ
- 第三 助成金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ内地ニ船籍ヲ有スル漁船ニ依ル漁業者ニ限ル

第四 助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一 事業目論見書

二 豫定經費明細書

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第五 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ農林省現地駐在官憲ノ指揮監督ヲ受クベシ助成金ノ交付ヲ受ケタル後ト雖亦同ジ

第六 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者助成金ノ交付ヲ請求セントスルトキハ農林省現地駐在官憲ノ出漁證明書ヲ添付シ請求書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第七 助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル年度終了後二月内ニ農林省現地駐在官憲ノ認證ヲ受ケタル事業成績書及經費精算書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第八 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者其ノ事業ヲ休止又ハ廢止シ其ノ他第四第一項ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ

第九 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者助成金交付許可ヲ受ケタル日ヨリ一年内ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

一 氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ

二 代表者ヲ變更シタルトキ

三 漁船滅失シ、沈没シ、解散シ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキ

助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者死亡シ又ハ合併ニ因リ解散シタルトキハ其ノ相續人又ハ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

第十 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ  
 農林大臣ハ助成金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル助成金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアル  
 ベシ

- 一 助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
  - 二 本要項ニ定メタル義務ヲ履行セザルトキ
  - 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
  - 四 支出額ガ豫算額ニ比シ減少シタルトキ
- 第十一 本要項ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ内地ニ住所ヲ有スル漁業者ニ付テハ漁業者ノ住所ヲ管轄  
 スル地方長官ヲ經由スベシ

●林第三四三號

昭和十五年五月二十八日

各 市 町 村 長 殿

經 濟 部 長

滿洲林業開拓民募集ニ關スル件

農林省山林局ニ於テハ昭和十一年ヨリ毎年各營林局管内ヨリ滿洲林業開拓民ヲ入植セシメ居候處本年モ引續  
 キ左記「林業開拓民入植方針及計畫」ニ依リ募集中ナルモ現下時局ニ因ル影響ニ加ヘ昭和十五年度ニ於テハ國  
 有林產物増産ノ實行等モ有之林業勞働者減少ノ今日國有林事業關係勞働者及其ノ地元部落民中ノミヨリ之カ  
 募集ヲ爲スコトハ極メテ困難ナル實情ニアルヲ以テ今般更ニ全國中民有林多キ府縣ヨリ募集シ可及的之ガ入  
 權數ヲ充足シ以テ國策ノ遂行ニ協力致度旨山林局長ヨリ申越ノ次第モ有之候條林業勞働者拂底ノ場合トハ被  
 存候得共右御諒察ノ上志望者ヲ取纏メ來ル七月末日迄ニ左記「林業開拓民入植方針及計畫」第五記載ノ作業經  
 歷書、身元證明書、身體檢査書、戶籍謄本、寫眞各二通ヲ御提出相成度此段及照會候也

追テ同日迄ニ御提出ナキトキハ志望者ナキモノトシテ處理可致候條御了知相成度爲念申添候

記

康徳六年度「林業開拓民入植方針及計畫」 滿洲國產業部

第一、方 針

林業開拓民ハ盟邦日本ノ道義の新大陸政策ト緊密ニ連繫セル協和滿洲國ノ中核トシテノ日本人ヲ定着セシ  
 ムル日本開拓民本來ノ使命ヲ負擔スルト共ニ建國以來急速ニ進展シ來レル諸多ノ産業開發計畫竝ニ國防計  
 畫ニ即應シ飛躍的膨脹ヲ遂クルニ至レル國家一元の森林開發事業ニ於ケル森林作業上ノ指導的役割ヲ果サ  
 シムルヲ以テ方針トス

第二、本年度入植計畫

所管營林 署名	斫伐地	入植地	現在戶數	本 年 度		所管營林 署名	斫伐地	入植地	現在戶數	本 年 度	
				新	累					新	累
牡丹江	二道河子	仙 洞	一一八	三二二	一五〇	敦 化	北大秧			一〇〇	一〇〇
勃利	大青山	古城鎮	一二四	二六	一五〇	同	沙河掌	大石頭		一〇〇	一〇〇
穆稜	大石頭			八〇	八〇						
綏化	呼蘭河鐵驢		三六	六四	一〇〇	計			二七八	四〇二	六八〇

第三、招致移住者選定要件

招致移住者ハ左ノ用件ヲ具フルモノノ中ヨリ最モ優良ナル者ヲ選拔ス

一、要 件

1、身體強健ナル者

2、思想堅實意志強固温厚着實親切ニシテ融和性ニ富ミ克ク滿人勞働者ノ模範トナリ其ノ指導ニ當リ得ル資質ヲ有スル者タルコト

3、成可ク本人ノ外農業ニ従事シ得ヘキ男子成人一人以上ヲ有スル農家ノ一員タルコト

4、成可ク既教育在郷軍人タルコト

5、農耕ノ經驗ヲ有スル者タルコト

6、成可ク渡滿移住者トシテ農民道場其ノ他ニ於テ團體訓練、精神訓練ヲ受ケタル者タルコト

7、徵兵検査終了ヨリ四十歳位迄ノ者ニシテ伐木運材ニ十分ナル經驗ヲ有シ且優秀ナル技能ヲ有スル者

二、成可ク入植箇所毎ニ同一地方ヨリ團體ヲ構成セシムル様選定スルコト

第四、就業ニ關スル要領

一、招致移住者ハ産業部ノ指定スル官行斫伐地並ニ滿洲林業公司ノ直營伐採地ニ於テ概ネ十月ヨリ翌年三月ニ至ル六箇月間業務ニ従事シ勞働日數ハ百二十日乃至百五十日ノ見込、其ノ餘ノ期間ハ主トシテ家庭ニ在リテ農耕ニ従事スルモノトス

二、移住者ハ官役人夫トシテ賃銀ハ功程拂トス(一日收入見込三圓乃至七圓)

第五、募集及渡滿

一、募集

1、移住者ノ募集ハ産業部ニ於テ案ヲ具シ拓務省ヲ通シテ農林省山林局ニ其ノ斡旋ヲ依頼スルモノトス

2、農林省ハ第三選定要件ニ基キ選定ヲ了シ拓務省ヲ通シテ七月末日迄ニ産業部ニ通知スルモノトス

右ノ通知ニ當リテハ本人ノ(イ)作業經歷書(様式第一號ニ依ル)(ロ)身元證明書(身體検査書)(ハ)戸籍謄本(ニ)寫真各一通ヲ添付スルモノトス

二、移住者ノ渡滿時期

1、移住者ノ渡滿期ハ別ニ産業部ヨリ農林省及拓務省ニ通知スヘキモ概ネ毎年三月下旬着トス(本年ニ限リ九月初旬着)

2、渡滿シタル移住者ノ事業現地ヘノ旅行收容其ノ他ノ處置ニ付テハ産業部、拓務省新京出張所ト打合セ適當ノ方法ヲ講ス

3、家族ノ渡滿ハ成可ク本人ト同行スルモノトス

第六、入植要領

一、本入植ニ付テハ拓務省助成ノ自由開拓民トシテ取扱フモノトス

二、營農

1、耕地ハ一戸五陌ヲ標準トシ内成可ク水田一陌ヲ耕作スル様指導ス

2、農事ノ指導ニ付テハ産業部配置ノ指導員ノ指導ニ俟ツノ多林野副業其ノ他ニ付産業部ニ於テ指導ヲ行フ

3、營農ハ食料並ニ肥料ノ自作自給ヲ基調トシ適地適作ニ依リ之ヲ行フコトトス

4、森林鐵道ノ通スル地方ニ於テハ販賣農產物並ニ購入物資等ノ運搬ニ關シ便宜ヲ與フ

三、公 共 施 設

1、開拓民子弟ノ教育ニ關シテハ駐滿日本大使館監督ノ下ニ所轄省ノ日本學校組合ニ於テ之ヲ經營ス

2、醫療衛生ニ關シテハ産業部ニ於テ開拓民村内ニ病院ヲ設立シ囑託醫及看護婦ヲ之ニ配置ス

四、村落ノ警備

開拓民村落ノ警備ハ集團開拓民地ニ於ケル方法ニ準スルト雖モ森林鐵道ノ通スル地方ニアリテハ鐵道警備員ヲシテ村落警備ニ協力セシムルモノトス

五、耕地ハ産業部及滿拓ニ於テ準備ス  
 六、住宅ハ營林署長指揮ノ下ニ建築ス

第七 資金 關係

一、一戶當所要資金

二、二〇〇圓 竝ニ渡航費

A 固定資金

一、七五〇圓

(1) 土地 代

四五〇圓 (開墾開田費ヲ含ム)

(2) 家屋建築費

七五〇圓 建坪一五坪

(3) 農舍兼畜舍

五〇圓 建坪一〇坪

(4) 井

五〇圓 四戶共同

(5) 共同施設費

一〇〇圓 事務所、鐵條網精米所、共同倉庫、其ノ他

(6) 農具馬車費

一五〇圓

(7) 家畜購入費

二〇〇圓 馬(牛)

B 流通資金

四五〇圓

(1) 家畜飼育費

五〇圓 初年度一箇年分

(2) 生計費

三〇〇圓 一月五〇圓六箇月分家族五人一人十圓

(3) 種苗費

五〇圓 初年度分ノミ計上

(4) 雜費

五〇圓

C 渡航費

家族ノ人員ニ應ジ拓務省補助金ヲ下附セラルルモノトス

二、資金ノ調達

A 補助金

1、前項ノ所要資金ニ對シ一戶當三〇〇圓ヲ限度トシテ拓務省ヨリ補助ヲ受ケ組合經理ノ下ニ之ヲ交付ス

2、渡航費ハ大人八〇圓小人四〇圓ノ割合ニ依リ拓務省ヨリ補助ヲ受ク但シ拓務省ノ豫算關係上減額セラルルコトアリ

B 借入金

補助金ヲ控除シタル所要資金ハ滿洲拓植公社ヨリ借入ル

滿洲拓植公社ヨリノ貸付金ハ五箇年据置キトシ利子ノミ支拂ヒ第六年目ヨリ十箇年ノ元利均等償還トス

三、收支計算(内譯省略)

種別/年度	第一年度	第二年度	第三年度
收 入	七五六 <sub>四</sub> 〇〇	一、二二二 <sub>四</sub> 五〇	一、四一三 <sub>四</sub> 五〇
支 出	一、〇七五、五〇	一、〇五四、〇〇	一、一五四、〇〇
殘 額	△三一九、五〇	一五八、五〇	二五九、五〇

第八 渡滿準備要領

一、引越荷物ノ輸送

イ、現地到着後即時必要トセラルルモノ

例ヘバ寢具、衣類及杣道具、炊事道具、農具ノ如キモノ

1、本引越荷物ハ手荷物トシテ鐵道又ハ船會社ニ對シ入植地迄託送ノコト

2、通關ノ都合上必要ナルニ付各人別ニ様式第二號ニ依リ右荷物ノ内容證明書(一通)作成ノ事

本明細ハ清津若ハ釜山着ト同時林野局係員ニ手交ノコト

- 3、代表者ハ内地出發驛又ハ出帆港ニ於テ託送スベキ總個數ヲ取纏メ墨汁ニテ行先名頭字付一連番號ヲ附シタル荷物ヲ添付シ然ル後託送ノコト
- 4、代表者ハ様式第五號ニ依リ番號ヲ作成シ清津若ハ釜山着ト同時ニ林野局係員ニ手交ノコト
- 5、鐵砲火藥刀劍類ハ手荷物中ニ梱包セサルコト
- ロ 現地着ト同時ニ必要トセサルモノ

(例ハハ筆筒其ノ他)

- 1、本引越荷物ハ運賃ノ都合上貨物扱トシテ鐵道又ハ船會社ニ對シ運送依頼ノコト
- 2、通關上必要ナルニ付様式第三號ニ依リ内容明細作成(三通)シ鐵道又ハ船會社ニ提出ノコト
- 二、其ノ他身廻リ品(直接本人持參スルモノ)

(例ハハ着換、洗面道具、簡單ナ農具等ノ如キ)

通關ノ必要アルニ付各人別様式第四號ノ内容明細作成(一通)代表者取纏メ所持スルコト

三、代表者出發時ノ新京林野局宛連絡事項

- 1、連絡所電信略號「シンケウリンヤキョクテウ」
- 2、總人員、大人員數、小人員數(半切符所持者)
- 3、託送手荷物總箇數

右ハ貨車線通關上必要ニ付必ズ連絡ノコト

四、其ノ他ノ注意事項

- 1、銃砲火藥類及擬裝セル刀劍類ハ必ズ所持許可及輸出許可證持參シ現品ハ直接携帯ノコト
- 2、普通ノ日本刀ハ右手續ヲ要セス
- 3、度量衡器ハ輸入出來ザルニ付持參セザルコト

4、荷捌ノ都合アルニ付託送手荷物ニ對シテハ全員同色布片添附セラレタシ

様式第一號

作業經歷書

氏名	生年月日
家族	戸主トノ續柄
本籍地	備考
現住所	兵役關係
作業經歷	
年月日	
年月日	

様式第二號

託送手荷物内容明細書

縣 市(郡) 町(村)

氏名

行先



昭和十五年五月二十八日印刷發行

三重縣公報(第三種郵便物認可)

三重縣廳

三重縣津市下郡田千六百十九番地ノ二  
印刷所三番  
振替口座番號 名古屋一四五〇六番